

M E S S A G E

神々の国の美しさ

「^{ほうき}伯耆地方の海岸線から島根半島を眺てみるといいですよ」

そう教えてくれたのは義弟で、妹も横で深く頷いた。

義弟は島根県議会の議員で、彼の父は以前、松江市長を務めていた。宍道湖・中海の干拓淡水化事業の中止を唱えていた当時、市長だった義弟の父は、市民の強い環境保護意識にも後押しされ、それを実行した。

出雲の地は、出雲大社で知られるように八百万の神々が集う神話の国だ。私が育った松江^{やおよろす}市も、ラフカディオ・ハーン——小泉八雲がその著述『神々の国の首都』にその美しさを記したことで、いまだにそれを読んだ海外の旅行者が松江を訪れるという。また、太平洋戦争で松江が戦火に見舞われなかったのは、それを愛読

していたマッカーサー元帥の秘書官ボナ・フェラーズの助言によるものだという。

「美しさ」が、出雲の地を守ったのだ。

だが、その美しい「水の都」は、人々の暮らしを守り、恵みを与えてくれるが、同時に災いももたらす。

日本海、中海、宍道湖……水位のほとんど変わらぬ、島根半島が包むこの水域は、かつて頻りに氾濫した。明治時代、それを克服しようと中海と宍道湖を結ぶ大橋川の拡幅工事を行ったが、それによって水位のバランスが却って崩れ、^{ひかわ}斐川地方に多大な被害を与えたという。

あちらが立てば、こちらが立たず……近年でも中海に堤防を設置したことで海流や生態系に変化が起こった。

宍道湖淡水化中止で汽水湖^{きすいこ}が守られ、日本有数の漁獲高を誇る^{しじみ}蜆は生き延びたが、かつて大漁だった白魚は激減している。この後、再び大橋川の拡幅工事が検討されていると聞くと、「恵み」と「災い」の本質を見失わないようにしていただきたいものだ。

島根県と鳥取県は、もちろん行政の上では別々に進めていかなければならないのだろうけれど、出雲、伯耆、^{いなば}因幡……それぞれの地域が、神話の国々としてはひとつで、分かれてはいない。

中央集権と地方分権……国や地域、家族と個人……現状の課題と歴史を振り返って学ぶこと、子孫に伝えていくこと、残すこと……己の身体感覚が明確でなければ、矛盾を抱えるそれらに対して、どう接したらいいの

か判らなくなるのは当然だろう。

先頃、鳥取の^{あかさき}赤碕を訪れた。

^{なわ}名和、^{やばせ}赤碕、八橋と続く旧街道の人家は、古くからの木造家屋が今なお残されていた。その竹まいから、海路の時代には栄えていた様子がうかがえた。

小泉八雲は妻の^{せつ}節と共に八橋に逗留し、その浜辺がいかに美しく快適であったかをも記している。

車が行き交う国道9号線で松江に戻る日没時、日本海の向こうに島根半島を望んだ。

^{いにしえ}古の身体感覚が呼び覚まされたかの如く、長く続く弓ヶ浜の向こう、そこには、神がいると実感した。

宍道湖の夕日
(写真：島根県)

佐野史郎

SANO Shiro

■プロフィール：

1956年島根県松江市出身。状況劇場(唐十郎主宰)を経て『夢みるように眠りたい』(1986・林海象監督)でスクリーンデビュー。その後、数々の映画やTVドラマ・舞台で活動。最近の作品では『チームバチスタの栄光』(2008・中村義洋監督)『ゲゲゲの鬼太郎2』(2008・本木克英監督)に出演。1999年には第一回監督作品『カラオケ』を発表。他にも執筆・音楽活動など多方面で活躍中。

